

公表 事業所における自己評価結果

事業所名		ゆめラボ道笑町教室				公表日	2026年 2月 5日
		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点	
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	8		利用者数と特性を踏まえて臨機応変に別室を使用する等の対応を行っている。訓練室等の使用時間が重ならないように時間を配分しながら行っている。		
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	8			療育に対する職員数は適切であると思うが、事務作業も考えると一部の職員に負担がかかっていると感じる。	
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	8		普段から危険箇所・行動について職員間で話し合い、危ない物は手の届かない所に置く等の対応を行っている。トイレ・洗面所等にイラストをつけて視覚的にも知らせている。		
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	8			利用人数によっては業務量が増えた際、日々の清掃がおろそかになってしまうので、清掃時間は日々の療育時間によって変更して行っていく。	
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	8		クールダウンや過敏性がある児に対して、必要に応じて個室を使用している。		
業務改善	6	業務改善を進めるための PDCA サイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	8		会議等であるべく多くの職員間で話し合いを行っている。		
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	8		評価表を職員間で共有し、今後の改善にむけて職員間で共有している。		
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	8		定期的に会議を開き、全体で意見交換をしている。改善点があれば早急に対応するよう、期日目標を立てている。		
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	5	3		検討中である。	
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	8		年間を通して研修動画視聴を義務づけている。		
	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	8		ホームページで公表している。		
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	8		療育担当者が日々の記録をもとにモニタリングを行い、児童発達支援管理責任者がニーズと課題整理を行いながら計画を作成している。		
	13	児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	8		必ずケース会議を行い全体で共有している。		
	14	児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	8		計画書を常に見える所に貼ったり達成記録表をつけたりして支援に当たっている。		
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	8		インフォーマルなアセスメントが中心だが、医療等と連携を取り専門家のフォーマルなアセスメントも参考にしている。		

適切な支援の提供	16	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」「本人支援」「家族支援」「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	8			年間計画の中に職員全体でのガイドラインの読み合わせを入れる。	
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	8			主となる職員がプログラムを作成し、内容については全体で話し合っている。	
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	8			課題・教材を職員間で共有している。違う職員の意見を聞き、内容の検討を行っている。	
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ、児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。	7	1		検討の上、同時間の利用児(約2名)と一緒に運動課題に取り組むことがある。小集団活動やイベントを企画し、5~7名で行う活動を実施した。	
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	8			起案書、スケジュール表を用いて職員間で役割分担を確認しながら支援を行っている。	
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	5	2		情報の共有や改善点を、毎日報告し合っている。	
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	8			毎回記録を取り、次の療育に繋げている。記録だけでなく、報告もして改善に努めている。	記録に時間がかかるが重要であると思う。
	23	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	8			1ヶ月ごとの振り返りをする際に、必要に応じて計画書の見直しを行っている。	
関係機関や保護者との連携	24	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	8			主に児童発達管理責任者が担当者から児の様子を把握したうえで出席している。	
	25	地域の保健、医療(主治医や協力医療機関等)、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	8			必要に応じて医療のリハビリの様子を見学し、計画作成を行ったり、療育課題の検討を行っている。	
	26	併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	8			保育所等訪問支援にて、個別療育と園の姿の情報を共有している。訪問以外でも、園の先生に見学に来ていただいたり、園に見学に行き、情報交換を行ったり、支援の方向性を話し合っている。	
	27	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	8			情報提供書を作成し、保護者に渡している。それを就学先に持参することで支援者と共有している。	
	28	(28~30は、センターのみ回答) 地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組等を行っているか。					
	29	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。					
	30	(自立支援)協議会こども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。					
31	(31は、事業所のみ回答) 地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。	8				医療機関の研修や意見交換会に参加し、専門家からのアドバイスを受けている。	

	32	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。	1	7		事業所内のイベントは企画しているが地域の中での活動は現在行っていない。
	33	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達状況や課題について共通理解を持っているか。	8			毎回の療育時にフィードバックを行っている。成長点と課題点を保護者と話し合い、共通理解を図るようにしている。
	34	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	8			卒園児の保護者を招いて、保護者交流会を開き、情報提供を行った。 今後、保護者同士が意見交換できる場を検討していきたい。
保護者への説明等	35	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	7	1		契約時に丁寧に伝えている。
	36	児童発達支援計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	8			計画作成時に対面にて十分な時間を取り、家庭・園の様子や困り事をお聞きしながら、療育の成長と課題点もお伝えしている。その中でニーズ整理を行い、計画作成を行っている。
	37	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	8			必ず対面にて計画書の説明を行い、同意を得ている。
	38	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	8			療育のフィードバック時やモニタリング月にお話を伺い、必要に応じて面談を行う等必要な援助と支援を行っている。
	39	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	8			兄弟同士の交流の場は現在もっていないが、イベントでは兄弟も参加できるようにしている。保護者交流会では自由会話の場が少ないので今後は交流の場を持てるよう検討を行う。
	40	こどもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	8			相談対応は療育担当者、児童発達管理責任者が迅速に行うように努めている。また、「常に何かあればいつでもお声がけください」とお伝えしている。
	41	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	8			定期的にSNS発信をしている。
	42	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	8			個人情報の扱いは職員間でも定期的に気を付けるよう話し合っている。
	43	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	8			特性と理解に考慮して話す内容、話す速度等調整を行っている。
	44	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。		8		現在地域交流の場は企画していないが、自治会長に取り組みについて丁寧に説明を行った。
非常時	45	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	8			年度途中のため、これから実施する物もある。
	46	業務継続計画(BCP)を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	8			感染症対策、避難訓練については、年度途中のため、これから実施するものもある。
	47	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	8			利用時に配慮すべきこととして、子供の状況を共有している。
	48	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	4	4		指示書はもらっていないが、保護者から聞いた情報は職員間で周知徹底を行っている。食事提供場面はないが、イベント時のおやつ配布や教材作成時に牛乳パックを使用しない、アレルギー食材を含まないものを用意する等の対策を行っている。

等 の 対 心	49	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	8		安全管理に必要な研修の他、嘔吐処理や地震災害があった場合にも対応についての振り返りを行い、安全管理に十分気を付けている。	
	50	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	8		避難場所等掲示して知らせている。	
	51	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	8		常に記録している。ヒヤリハット報告会を開き、事故防止に向けて職員間で話し合いを行っている。	
	52	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	8		年間必須義務として、研修動画を視聴するようにしている。	
	53	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	8		契約時や計画説明時に都度説明を行っている。	